

評価テーマ1 「主体的で深い学びを実現することができる施設」に対する技術提案（1/2）

テーマ1 吹抜空間『センター commons』がつなぐ共創の学び舎

『メディア commons』（図書室+コンピューター室）から吹抜階段で3階まで繋がる、学びと交流の中心『センター commons』をつくりま...

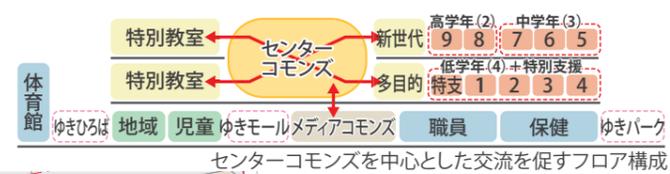


みんながあつまる“センター commons”

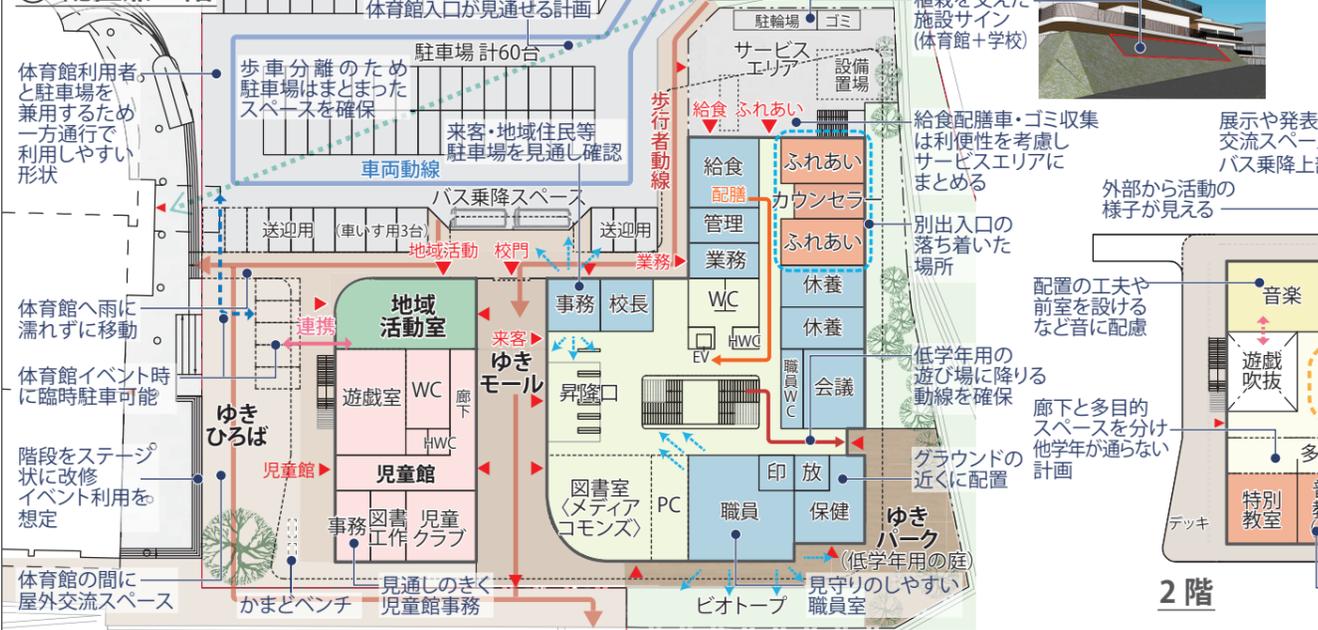
- 学校の中心にみんなが使う大きな吹抜階段を設け、交流と学びの中心『センター commons』とします。
センター commonsには掲示や展示スペースを設け、学習の成果や作品を展示します。

異学年交流を促すフロア構成

- 小中一貫教育校として4・3・2の教室配置とします。低学年（1、2年生）は教員ステーションの近くに、中学年は学校活動の中心として、高学年（8、9年生）は受験への集中が可能な配置とします。

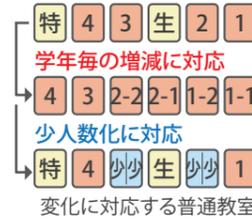


配置兼1階



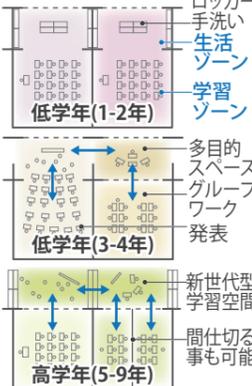
児童生徒数の変化にも柔軟に対応

- 普通教室を連続した直線状に配置します。
児童数の増減による教室編成や、他用途への転用、間仕切りで少人数化する等、教育環境の変化にも柔軟に対応します。



教室と一体の多目的スペース・新世代型学習空間

- 教室の前に多目的スペースを設け、学年に応じ扉や壁に可変性を持たせ、利用形態に応じた使い方を提案します。
1、2年生は教室で過ごす時間が多いため、多目的スペースを取り込んだ広い教室を提案します。

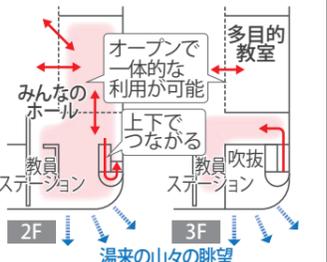


教科毎の特色ある特別教室

- 理科室は小中学校をまとめて配置し、切れ目のない科学的思考を育成します。
音楽室は音環境に配慮し前室を設けます。また、児童館の遊戯室と吹抜で繋がり、放課後の部活動などとの視線の交流が可能です。

教職員と児童生徒をつなぐ『みんなのホール』

- 多目的なスペースと教員の居場所、教員ステーションを組み合わせた『みんなのホール』を整備します。
教員と児童生徒の交流の場として機能します。

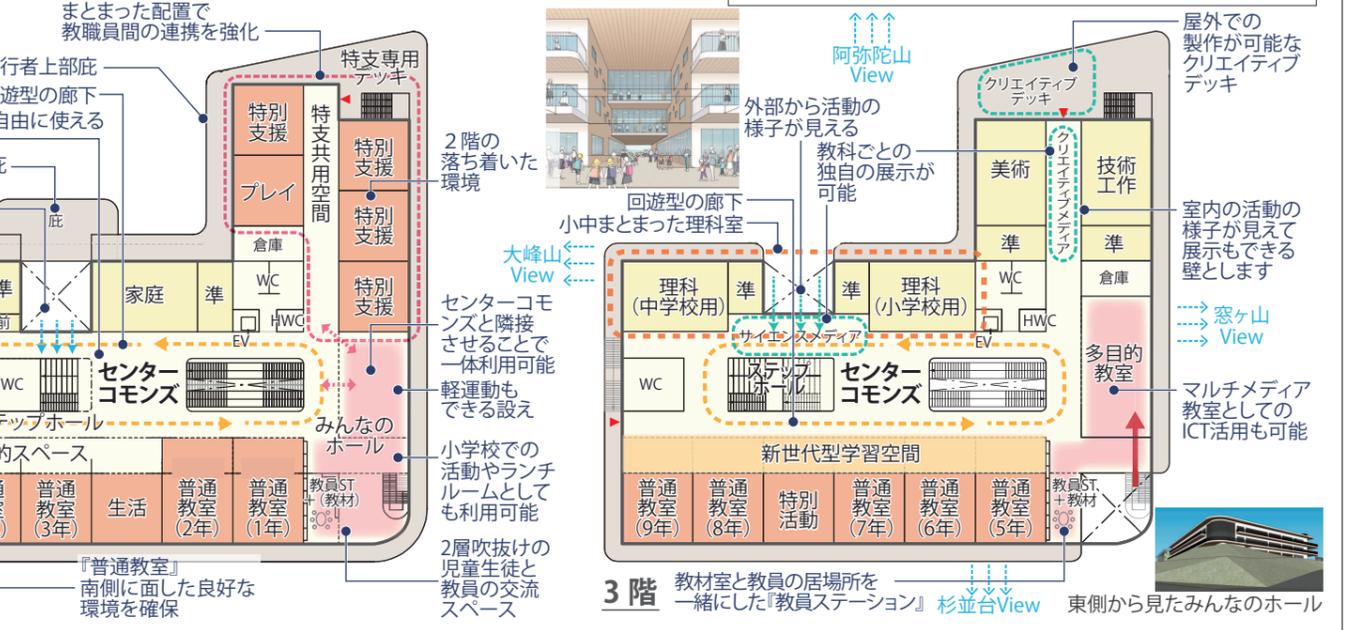


落ち着いた環境の特別支援教室

- 特別支援教室は2階の落ち着いた場所に小中をまとめて配置し教職員の連携を図ります。
天気の良い日には屋外の専用デッキで活動できます。

体を動かし学ぶ『ゆきパーク』

- 環境の良い場所に遊具を設置した低学年用の庭と、ビオトープをあわせた一体的な屋外活動の場『ゆきパーク』を整備します。
職員室や保健室の近くで安心して過ごせ、グラウンドへの動線にも面し、ビオトープを介して地域との交流活動も可能です。



テーマ2 学びと地域をつなぐ、新たなまちづくりの交流拠点

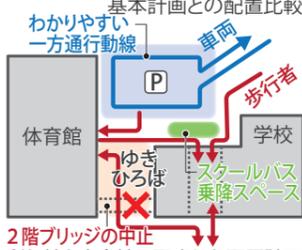
公共スポーツ施設と一体となり使いやすく、安全な計画

- 基本計画では体育館と学校の間は駐車場でしたが、**歩行者用の屋外広場**とすることで、体育館への**2階ブリッジ**を中止し、安全な地上部での屋根付き歩行者動線としました。
- 体育館利用者にとって利便性の高いまとまった駐車場計画と児童生徒の安全性を考慮した**完全な歩車分離**の計画とします。
- 一方通行のわかりやすい駐車場とし学校の正面にスクールバス乗降スペースを設けます。



体育館・地域と学校をつなぐ3つの屋外空間

- 『ゆきひろば』: 体育館と学校の間を**屋外広場**とし屋外交渉活動の中心とします。
- 『ゆきモール』: 登下校用の**ピロティ空間**としグラウンドへのスムーズな動線を確認しながら地域活動室・児童館との接点をつくります。
- 『ゆきパーク』: 低学年用の庭に**ピオトープ**を組み合わせ、地域住民とともに自然環境に触れ合う場を創出します。



地域活動室が地域と学校をつなぐ活動拠点に

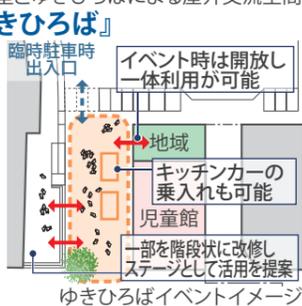
- アプローチ正面に配置し中の様子が伺える**開かれたイメージ**とします。
- 地域活動室と児童館をゆきモールを介して学校と半屋外で繋がります。
- 出入口を3方向に設け学校との地域活動や体育館側主催のイベント利用などさまざまな使い方が想定できます。
- 地域活動室の使い方を話し合う、『**地域のみんなとワークショップ**』を提案します。必要な設備や備品など地域の方の声をかたちにします。



地域活動室とゆきひろばによる屋外交渉空間

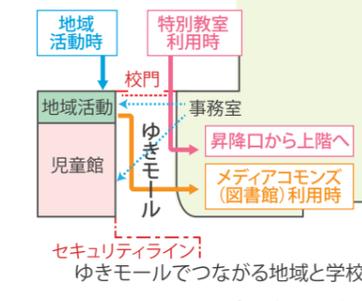
体育館と学校を緩やかにつなぐ屋外空間『ゆきひろば』

- 地域活動室と一体の活用が可能です。
- 普段は歩行者のみですが体育館でのスポーツ大会時には**臨時駐車エリア**としても利用できる設えとします。
- 車両対応の床仕上げとすることでキッチンカーの乗入れも可能です。
- 体育館との更なる繋がりととして階段部分を一部**ステージ状に改修**することも提案します。



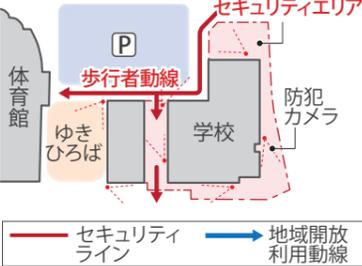
ゆきモールによる安全な半屋外活動

- 地域活動室、児童館と学校エリアは**ゆきモール**を介してつながります。
- ゆきモールには学校の玄関としての**安全な校門**を設けます。
- 地域活動室とメディアcommons(図書室)はゆきモールを介して繋がり、屋根付きの半屋外空間が大人の目が届きやすい**安全な緩衝帯**となります。
- 事務室で安全に出入りの管理ができます。
- 天気の良い日も縄跳びや一輪車などの屋外活動が可能です。



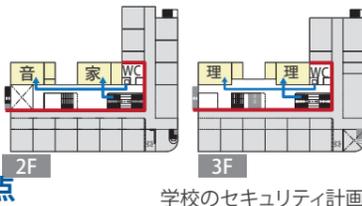
学校の安全を守るセキュリティライン

- 学校は**校門やフェンス**等で明確に区画し防犯カメラを適切に配置します。
- 学校の地域開放時には校内に**安全なセキュリティライン**を構築します。EVや多目的WCも含め**バリアフリー**に配慮します。
- 地域開放エリアは最小限とし、センターcommonsの展示で児童生徒の**日常の学習活動や成果**を閲覧できます。
- セキュリティラインは、学校関係者と協議の上、容易に管理できる方法を提案します。



児童館は開かれた子ども同士の交流拠点

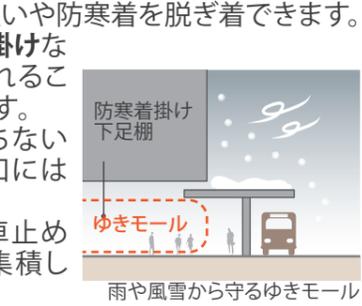
- 児童館は学校と離すことで放課後や休日の利用・管理がしやすくなります。
- ゆきひろばと、ゆきモールの両方から出入りが出来、**メディアcommons(図書室)やひろばと一体利用**が出来ます。
- 児童館利用者は保護者見守りの中でゆきパークが利用できる計画とします。
- 放課後児童クラブを利用する児童は校門を出ずにゆきモール側から入ります。
- 放課後児童クラブからの下校は学校の時間外の場合、ゆきひろば側から退室することもできます。**運用を見据えた自由度の高い計画**とします。



「その他、設計上の配慮事項等（評価テーマに対する内容を除く。）に対する技術提案」

雪の日もスムーズに活動できる学校

- ピロティのゆきモールは登下校時に雪払いや防寒着を脱ぎ着できます。
- ゆきモールには合羽やかさばる**防寒着掛け**などの設置を検討します。また、長靴を入れることができる**下足入れ**の設置を検討します。
- 庇上からの落雪や雪庇が歩行者に落ちないように、敷地内歩道とスクールバス乗降口には**広い庇**を設けます。
- 駐車場は除雪機が使いやすいように車止めをなくし、除雪した雪はゆきひろばへ集積します。



テーマ3 木の温もりと湯来の自然が調和する学び舎

湯来の自然の中で木材に触れ、木の持つ可能性や地元の木材について、また社会課題であるCO₂削減について学ぶ、木の学び舎とします。



広島県産材に守り支えられるみんなのセンターcommons

- センターcommonsは**広島県産の木材**をふんだんに使用し、木のぬくもりと落ち着いた学びのシンボル空間となります。
- 校舎の構造はRC造としますが、階段やハイサイドライトは一部鉄骨造とし、柱梁を**木材で被覆**します。木を主構造体としないことで、耐火性能の規定や採用樹種、寸法等が制限されずコストに配慮した計画とします。

地元家具メーカーとのコラボレーション

- 地元家具メーカーとコラボし**オリジナルの木製家具**を製作します。
- 児童生徒参加型の**ワークショップ**を開催し、家具を製作します。
- 制作したいすを学校の各所に設け、お気に入りの場所や過ごし方を見つけるきっかけをつくります。



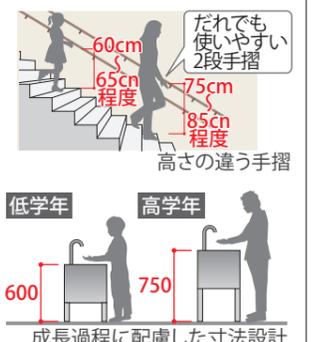
学校の顔となるゆきモールを『木の玄関』へ

- 登下校で毎日通るゆきモールを子どもたちの心の原風景となるように、木材を組み合わせた印象的な『**木の玄関**』とします。
- 雨掛りとならない**庇や屋根の軒天と壁の一部**を木板張り仕上げとします。
- 屋外に使用する木材材は**不燃化**します。液だれ(結露)や白華の原因となるリン系溶剤を使用しない**不燃木材**を採用します。



小中一貫校としての生活環境への配慮

- 小学生から中学生まで身体差があっても使いやすい**ユニバーサルデザイン**を心がけます。
- 昇降口は**間口を広く確保**し登下校時の混雑を緩和します。また**階段も十分な幅**を取ります。
- 階段手摺は、使いやすい**2段手摺**とします。
- 家庭科室や理科室は地域住民も利用するため、高さが調整できる**昇降式調理台や実験台**の採用も検討します。
- 手洗いの高さについても、学年に応じたみんなが使いやすい高さとなります。



特定結果

第二特定者